

周辺地域への波及性効果に着目した 道路空間の利活用効果に関する研究

籠瀬 美穂¹・佐藤 学²・小嶋 文³・久保田 尚⁴・

¹非会員 東京都 (〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1)

E-mail: Miho_Kagose@member.metro.tokyo.jp

²非会員 埼玉大学大学院理工学研究科 (〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255)

E-mail: satoh.m@dp.civil.saitama-uac.jp

³正会員 埼玉大学大学院 理工学研究科 助教 (〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255)

E-mail: kojima@dp.civil.saitama-u.ac.jp

⁴正会員 工博 埼玉大学大学院理工学研究科 (〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255)

E-mail: hisashi@dp.civil.saitama-u.ac.jp

近年、既存の公共空間の有効活用が全国的に広まってきており、全国各地で社会実験が実施されるようになっていく。公共空間を賑わいの場として利用する取り組みは増えているものの、その後の本格実施に至る例はまだ少ない。地元住民の反対、市民のニーズとの相違などが大きな問題となり本格実施に至らない例も見られる。これは、道路空間利用の実態と効果について説明の不足が原因と考えられる。本研究では、道路空間の利活用効果を提示することにより地元住民の主体的な参加が増加すると考え、検証を行った。オープンカフェの効果には大きく分けて、周辺道路空間の賑わいづくり、周辺店舗の認知度向上、周辺地域への回遊性効果、道路空間のイメージ向上が期待されることが分かった。

Key Words : *social experiment, open café, pedestrian, participation of local citizen, community*

1. はじめに

(1) 背景と目的

近年、公共空間を賑わいの場として利活用するなど、豊かな道路空間づくりに向けた取り組みが活発化している。特にオープンカフェを利用したまちの活性化は、全国的に広がりを見せており、多くの社会実験が実施されるようになってきている¹⁾。しかし、市民のニーズとの相違や道路使用許可取得の難しさ、地元住民の反対等の理由から、社会実験の枠を超え、本格実施に至り、定期開催を行っている事例は多いとは言えない状況がある。

本格実施に至るためには、より多くの市民のニーズへの対応と法律や反対住民への対応としての地元市民の主体的な参加が必要不可欠と言える²⁾³⁾。また、定期開催に向けては、周辺店舗や地域住民の営業等に配慮しつつ、利用者にとってより魅力的な空間の創出が必要不可欠で

ある。しかし、地元住民の反対、市民のニーズとの相違などが大きな問題となり本格実施に至らないことも多いのが現状である。これは、道路空間利用の実態と効果について、周辺住民や店舗への説明の不足が原因と考えられる。

本研究では、地元店舗主体で実施された大宮西口オープンカフェを事例として、利用者の意識に着目し、オープンカフェ実施が利用者を与える影響やオープンカフェ参加店舗への効果について検証を行い、道路空間の利活用効果を明らかにし、また、これらの結果を周辺店舗へ提示することにより地元住民の主体的な参加が増加すると考え、検証を行った。

(2) 大宮西口におけるオープンカフェの概要

本研究の対象地域である大宮駅の西口地区は、人通りが多いにも関わらず、多くが駅と大規模店舗、大型複合施設等をつなぐペDESTリアンデッキを歩行しており、

地元店舗が並ぶ地上の通りに人が集まりにくい状況である。そこで、さいたまカーフリーデーの一環として、オープンカフェが毎年行われている（平成19年から年に一度）。さらに、周辺店舗からの有志で結成された大宮西口おもてなし実行委員会が主催となり、大宮西口活性化を目的とする大宮西口おもてなしオープンカフェを開催した。大宮西口おもてなし実行委員会には、地元住民のほか、事務局として大学、オブザーバーとして市役所及び市役所から委託を受けたコンサルタントが参加している。

大宮西口おもてなしオープンカフェは、大宮駅前の通称レンガ通りで2012年5月26日、12月2日に実施された。実施中は対象の通りを車両通行止めにし、道路路上に出店、テーブル、椅子を設置した（写真-1）。出店者はレンガ通り及び周辺の通りの沿道店舗、及び地元住民である。また、道路空間で大学生による弦楽演奏、アカペラ演奏のイベントを実施した。

2. 調査方法

(1) オープンカフェ利用者へのアンケート調査

本研究では、上述の大宮西口おもてなしオープンカフェを対象として、実施当日に利用者へのアンケート調査を行い、歩行者天国空間で行うオープンカフェについて、利用者の意識の検証を行った。また、2012年12月23日の普段の休日との比較を行うため、事後調査においてもアンケートを行った（表-1）。

(2) オープンカフェ周辺店舗へのヒアリング調査

オープンカフェ開催後、オープンカフェでのアンケート結果をもとにオープンカフェの効果を検証し、まとめたものを各店舗に説明に伺い、その際にオープンカフェへの意識変化を検証した。毎回の各店舗の実験への参加・協力状況の比較と2012年12月の実験実施後の2013年1月21日から31日の間、各店舗に対するヒアリング調査によりその意識変化を検証した。

(3) 歩行者の笑顔度調査

オープンカフェ開催によって、レンガ通りを訪れる歩行者の笑顔度が増加したかを検証するため、オープンカフェ開催時および2012年12月23日の通常日においてビデオカメラによる歩行者の観測を行った。

3. オープンカフェの利用者意識

2012年12月に行われた大宮西口おもてなしオープンカフェでのアンケート結果から、道路空間を活用したオープンカフェの効果には大きく分けて、周辺道路空間の賑わいづくり、周辺店舗の認知度向上(図-1)、周辺地域への回遊性効果(図-2、図-3)、道路空間のイメージ向上(図-4)が期待されることが分かった。



写真-1 大宮西口おもてなしオープンカフェの様子

表-1 アンケート配布・回収率

	通常時	オープンカフェ開催時
配布数(部)	38	89
回収数(部)	38	73
有効回収数(部)	38	73
回収率	100%	82%

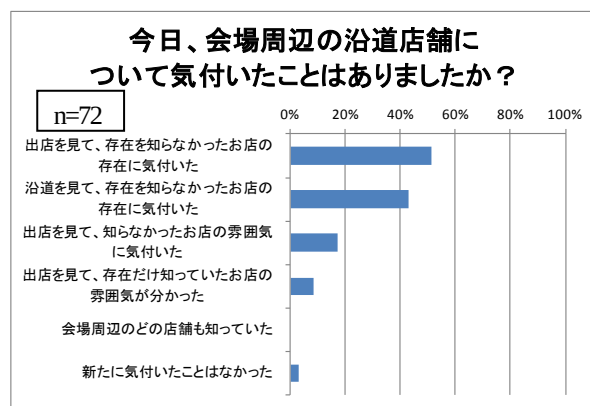


図-1 周辺店舗の認知度向上効果

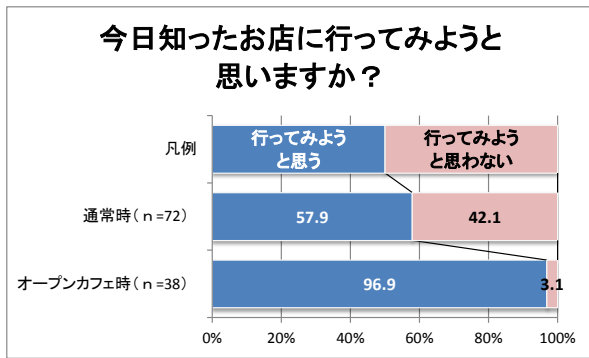


図-2 周辺店舗の認知度の向上

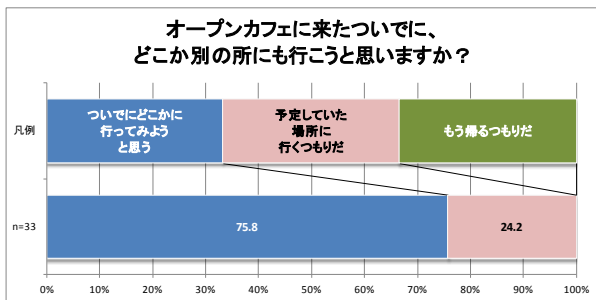


図-3 周辺地域への回遊性効果

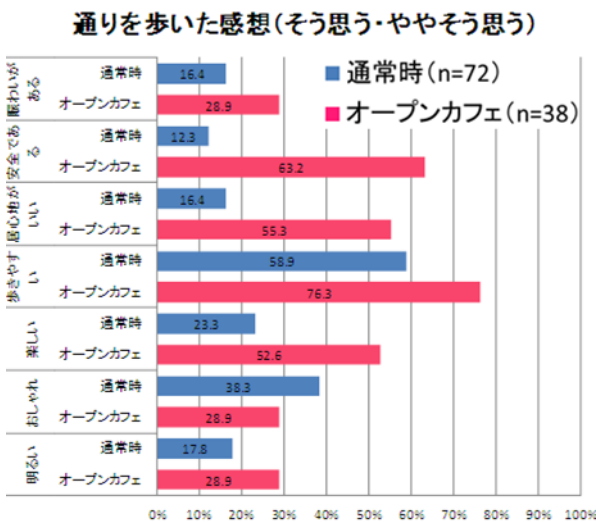


図-4 通りのイメージの向上

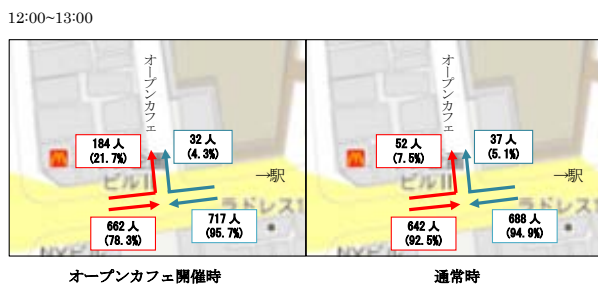


図-5 歩行者数の変化

4. オープンカフェ利用者の行動

(1) 歩行者数の変化

通常時とオープンカフェ設置時の歩行者交通量の比較を行うため、歩行者交通量調査から通常時に比べ、大宮駅に向かう歩行者のオープンカフェ開催通り（図-5上方向）への流入率がどの時間帯においても増加しており、オープンカフェ開催が賑わいづくりに役立っていると考えられる。

(2) 歩行者の笑顔度

ビデオカメラで撮影した映像を PC 上で再生し、その画面を小型カメラを通してスマイルスキャン（表情によって変化する目や口の形、顔のしわなどの情報から、笑顔度合いを 0~100%までの数値を出力可能な機器）で読み取り、通常時とオープンカフェ開催時の歩行者の笑顔度の変化を比較した。

通常時とオープンカフェ開催時の笑顔度比較すると、平均笑顔度と最大笑顔度のいずれも、オープンカフェ開催時の方が高い値となった。また、オープンカフェ開催により、1人よりも2人組の数が増え、平均笑顔度、最大笑顔度ともに通常時よりも大幅に大きくなっている。（表-2）、（図-6）

表-2 笑顔度の変化

	通常時		オープンカフェ開催時	
	1人	2人組	1人	2人組
歩行者形態	485人	97組	523人	256組
スマイルスキャンの測定人数	59人	8人	26人	24人
平均笑顔度	3.30508475	8.125	7	23.2916667
最大笑顔度	11.3389831	19.625	13.1153846	37.5416667

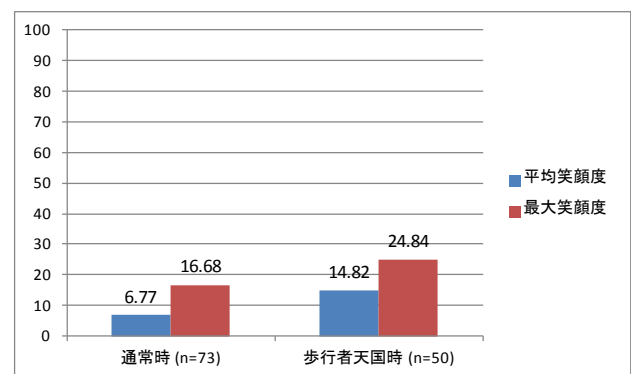


図-6 笑顔度の変化

5. 周辺店舗の意識

2012 年度最後の大宮西口おもてなしオープンカフェ（12 月開催）開催後にオープンカフェの効果（周辺店舗の認知度向上効果、周辺地域への回遊性効果、道路空間のイメージ向上効果、歩行者数の変化）についてまとめた資料を提示し、オープンカフェの目的や効果について説明することでどのような意識変化があるのかを周辺店舗へのヒアリング調査により、分析を行った。歩行者数について興味を抱く店舗が多く、数値でのデータの示し方がオープンカフェの効果を理解しやすいと考えられる。店舗周知効果に興味を持つ店舗も多く、オープンカフェへの参加・協力にはオープンカフェ参加による店舗への集客効果や周知効果を提示することが有効であると考えられる。オープンカフェ効果の提示により、オープンカフェへの参加・協力の意思は高まると感じている店舗が多く(表- 3)、今後も効果の提示やオープンカフェに関して説明を続けていくことで、より協力的な店舗が増えると考えられる。

このことから、今後も効果の提示やオープンカフェに関して説明を続けていくことで、より協力的な店舗が増えると考えられる。また、今後の取り組みについても説明し、同意を得ていくことで、今後の開催が円滑になると考えられる。

6.まとめ

オープンカフェ効果の提示により、オープンカフェへの参加・協力の意思は高まると感じている店舗が多く、今後も効果の提示やオープンカフェに関して説明を続けていくことで、より協力的な店舗が増えると考えられる。今後も効果の提示やオープンカフェに関して説明を続けていくことにより、オープンカフェ実施に関する理解を深めてもらい、より協力的な意見を持つ店舗が増えると考えられる。また、今後の取り組みについても説明することで、今後の開催が円滑になると考えられる。

本研究のまとめをふまえ、売上や集客効果を具体的な数値で提示することによる、周辺店舗の協力の意思の変化の検証。オープンカフェの効果だけでなく、今後の取り組み方針・目的についても店舗に説明していくことによる、周辺店舗の協力の意思の変化の検証。店舗協力を得やすい店舗周知効果の得やすい開催規模の検証などが必要と考えられる。

また、歩行者の行動について歩行者数のみではなく笑顔度など新たな指標により評価することで、より利用者や周辺店舗にとって魅力のあるオープンカフェの効果を提示できると考えられる。

参考文献

- 1) (財)都市づくりパブリックデザインセンター：公共空間の活用と賑わいまちづくり，2007.5.30
- 2) 岡田直也，久保田尚：歩行空間における賑わい創出のためのオープンカフェの実現可能性に関する研究，土木計画学研究・論文集 Vol.27，pp.507-513
- 3) 相澤裕美，久保田尚：産官学の連携による鉄道駅周辺の交通まちづくりの実現手法に関する研究，土木計画学研究・講演集 Vol.38，CD-ROM，2008.

(? 受付)

表-3 オープンカフェ効果の提示による周辺店舗の意識変化

オープンカフェへの参加の意向	2011年時参加意向	2011年時協力意向
参加したい。実行委員会にも興味がある。	なし	なし
開催の様子を見てみたいとわからない	なし	なし
参加は難しい。メリットが見つかれば参加したい。	なし	検討したい
何とも言えない	なし	なし
参加は難しい。	なし	なし
人手の面で参加は難しい。余裕があれば。	なし	なし
参加は難しい。協力はする。	なし	検討したい
忙しい時間帯であり、出店が難しい。メリットが見つかれば参加したい。	なし	なし
お客さんにお店を知ってもらえるようなおもしろい魅力的な空間になれば検討したい。 協議会の目的（大宮西口の賑わい）がきちんと見えるようになれば。	なし	なし
今のところない。	検討したい	検討したい

Research on the utilization effect of road space of
having observed the influencing effect to the surrounding area

Miho KAGOSE, Hisashi KUBOTA, Aya KOJIMA and Manabu SATOU

In recent years, effective use of public space has spread nationally and the experiments are conducted all over the country. However, there are still few examples which result in formal enforcement. However, there are still few examples which result in formal enforcement. Active participation of the local citizen as correspondence to opposite residents and correspondence to more citizens' needs are indispensable. However, they pose a big problem and do not result in formal enforcement in many cases. They pose a big problem and do not become full-fledged enforcement in many cases.

Shortage of explanation about the actual condition and effects of road space use are considered to be the cause. In this research, I gather that local residents' active participation increases by the explanation about utilization effect of road space and It verified.